

# 謹賀新年

平成26年 年頭のごあいさつ

「住みたい牧之原市」の姿を明確に描き出し、市の元気と活力を取り戻す



牧之原市長  
西原 茂樹

市民の皆さまには輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。旧年中は、市政各般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、本年も「市民一人ひとりが主役」の理念に基づき、「協働のまちづくり」を進めてまいります。地震津波防災をはじめ、まちづくり全体におきまして、男女協働サロンなど市民参加の場を設け、地域の絆づくりに取り組めます。具体的な事業では、沿岸5地区で作りました「津波防災まちづくり計画」に基づき、避難タワーや避難路、防災倉庫などの整備を重要施策として進めてまいります。また、局地的な豪雨対策として、浸水地区での排水計画の策定と事業着手に向けて、スピード感を持って取り組みます。浜岡原発の「永久停止」につきましては、福島第一原発事故が収束しない状況や万が一の事故の可能性が存在する限り方針が変わることはなく、市議

会と共に主張してまいります。経済の活性化や雇用の拡大など、市の元気と活力を取り戻す取り組みも不可欠です。川勝県知事は、2020年東京オリンピック開催を契機として、富士山静岡空港への新幹線新駅の設置方針を発表しました。こうした動きに際して、空港や東名高速道路IC周辺などへのにぎわい施設や研究施設の誘致などを目指します。また、公益性や将来性が高い太陽光発電や風力発電など、再生可能エネルギーの導入にも注力してまいります。さて、本年は次代の幸福実現都市に向けた新たな総合計画を策定します。市民会議などを通して「住みたい牧之原市」の姿を明確に描き出し、くらしの安全と安心を確かなものとし、市の活力を取り戻していきたくと考えています。本年も、皆さまと共に市の発展のため、全身全霊を尽くしてまいりますので、ご理解と市政への積極的なご参加をお願い申し上げます。



牧之原市議会議員  
小杉 康男

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、健康で希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。日ごろは市議会に温かいご支援とご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。さて、三月で東日本大震災の発生から早三年になろうとしています。東北の皆さまにとっては、復興の第一歩である除染活動の進捗の遅れから、帰省の見通しが未だに立たない状況です。一日も早い被災地の再建を願ってやみません。本市においても、市民の安全安心を保つためには、地震・津波対策こそ、最重要課題として早急に取り組まなければならぬものです。東北に学び生かす災害対策には、まず行政があるべき姿を市民に示したうえで、将来を担う若者を含めたワークショップを展開すべきと考えます。市の発展のためには、若者に充分魅力ある・活力溢れた

地域社会を実現することが肝要で、市長・議会・市民が一体となって、取り組まなければならない厳しい時代です。市議会においては、昨年9月に、議員定数を一人減らし16人とする条例改正を行い、10月に選挙を行いました。新人議員7人を含め、議員には議会の活性化に大いに期待をしております。私も引き続き、議長に就任し、さらなる議会の活性化に向けて取り組んでまいります。また、議会本来の役割である行政チェックに視点を置き、議会の立場で市民の皆さまの意見を行政に反映し、政策提言に取り組んでまいります。私たち議員が「己に厳しく、人に優しく」を肝に命じ、市民の代表として、その役割と責任の重さを自覚し、頑張ります。結びに、新しい年が市民の皆さまにとって、実り多き年となりますことを心より祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

議員一丸で「己に厳しく、人に優しく」を肝に命じ、市民の代表として精進する